



カリブ！ケニア

KENYA

池本 順子

山口県周防大島町立三浦小学校

◆実践教科 総合的な学習の時間、生活科

◆時間数 5時間

◆対象学年 4年生（3時限目の内容は学年別に全学年で実施）

◆対象人数 11名（全学年49名）

カリキュラム

■実践の目的

・開発途上国ケニアやセネガルの人々の暮らしや文化にふれる中で、日本との異同やつながりを知り、異文化への興味・関心を高める。

・カンガ（衣）やギゼリ（食）を通して、ケニアの人々の知恵や工夫に気づく。

ここが素晴らしい！

授業実践の前に校内研修を行ったり、全学年でカンガの使い方の授業実践をしたり、最後は教育長までまきこんで…。学校ぐるみで実践しやすい雰囲気を作り、今後の国際理解教育の種まきをしました。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 「アフリカってどんなところ？」 アフリカの国々に興味・関心をもつ	・スワヒリ語の挨拶や自己紹介を楽しむ ・アフリカクイズに挑戦する ・アフリカのイメージ、知っていることや知りたいことを紹介し合う	・アフリカが中心の世界地図 ・日本が中心の世界地図 ・地球儀 ・ワークシート
2時限目 「セネガルからボンジュール！」 異文化に親しむ *元青年海外協力隊の鈴木さんとセネガル人の夫イブさんの出前授業	・セネガルの暮らしや文化について知る ・セネガルの太鼓を演奏する ・イブさんにセネガルについての感想を伝えるとともに、日本や周防大島を「一言アピール」で紹介する	・セネガルの写真 ・セネガルのお金、お守り ・セネガルの太鼓 ・セネガルの民族衣装 ・フランス語の会話カード ・ワークシート
3時限目 「カリブ！ケニア」 ケニアと日本との異同やつながりを知る 1枚の布を工夫して使うケニアの人々の知恵のすばらしさに気づく	・スワヒリ語の挨拶や歌を楽しむ ・ケニアの暮らしや文化について知る ・「ケニア直感クイズ」で、水や電気のない暮らし等、開発途上国の現状と問題を知る ・カンガの使い方を考え、紹介し合う	・スワヒリ語のCD ・歌詞カード／パワーポイント ・ケニアで購入した特産品 ・水の入った灯油容器 ・マータイさんの「もったいない」の本と風呂敷／カンガ／ワークシート
4時限目 「学校へ行きたい！」 恵まれない環境の中で、夢をもって頑張るケニアの小学生と学校給食の役割について知る	・ケニアと三浦の小学生アンケートの調査結果を比較し、感想を発表する ・スラムの小学校の授業風景や給食の写真を見て、気づいたことや感じたことを発表し合う ・二人の男の子の朝食と歯の関係から、ギゼリ給食のよさを知る	・パワーポイント ・アナジャリスクールの写真 ・フォト・ランゲージ ・エケルボ小学校の写真 ・給食室やギゼリ給食の写真 ・二人の男の子の絵 ・食品分類表／ワークシート
5時限目 ケニアクッキング 「手で食べてみよう！」 主食や食べ方の違いを知り、異文化への理解を深める	・主食を比較し、様々な文化にもつながる異同を知る ・ウガリとチャイを作る ・ウガリを食べるときの手の使い方を知る ・ウガリと日本風ニョマチョマを試食する ・感想を発表し合う	・ケニアのトウモロコシ畑と本校児童の米作りの写真 ・ウガリ用のヘラとしゃもじ ・食材（ケニアで購入したウガリの粉と紅茶、牛乳） ・調理道具／ワークシート ・日本風ニョマチャマ

授業の詳細

1 時限目 アフリカってどんなところ？

「ジャンボ！ハバリガーニ」「・・・？（子どもたちの反応）」授業の始まりは、耳慣れないスワヒリ語の挨拶から。お辞儀をする日本式とは異なるアフリカの国々の挨拶をクイズ形式で紹介しながら、子どもたちの興味を引きつけ、意欲化を図った。

子どもたちは、初めて見るアフリカが中心の世界地図に驚いたり、スワヒリ語での挨拶や自己紹介を楽しんだりしながら、未知の国アフリカへ思いをはせていった。



アフリカのイメージはね・・・

2 時限目 セネガルからボンジュール！

民族衣装をまとった鈴木さんが、写真や具体物を使いながらセネガルの紹介や太鼓の演奏をしてくださり、自然に異文化に親しむことができた。

「三蒲太鼓」で日頃から和太鼓を演奏している子どもたちは、セネガルの太鼓の造り、鳴らし方や音の違いに驚きつつも、イブさんのリードで太鼓の演奏を楽しむことができた。



太鼓を浮かせるといい音がでるよ！

所感

授業前の給食や昼休みから、全校の子どもたちがイブさんやノア君との交流を楽しんだ。

外国の方との出会いがほとんどない本校の子どもたちにとって、これは異文化理解のスタートライ

ンとも言うべき貴重な体験であった。

「どうして肌が黒いの？」という素朴な疑問を投げかける子どもたちに、「世界には様々な肌の色の人がいるのよ」と穏やかに語りかけてくださった鈴木さん。

違いをどう乗り越えていくかは、異文化理解だけでなく本校でも問題になっているいじめ等の人権問題にもつながっていく課題であると思った。



イブさん、ノア君といっしょに！

3 時限目 カリブ！ケニア

ケニアでは、「どんな暮らしをしているの？」「どんな食べ物を食べているの？」「どんな遊びがあるの？」「どんな動物がいるの？」「日本人はいるの？」といった1時限目に子どもたちから出た問いを解決するような流れでパワーポイントを作成し、自分の目で見て、実感した「ケニアの暮らしや特産品、日本とのつながり等」を紹介した。



赤道直下なのに、ストーブ！

「ケニア直感クイズ」は、クイズの答えや理由を考える中で、水や電気がない暮らし、平均寿命の短さ等の開発途上国の現状や問題に気づくよう焦点をしばって作成した。

第5問では、水を入れた灯油容器を持って教室内を歩く活動を組み込み、水の重さを体感することで「水運び」の大変さや水の貴重さに気づかせた。

ケニア直感クイズ

- ①これは何？（A：手作りのサッカーボール）
- ②小学校にあったこの施設は何？
（A：トイレ）
- ③このおじさんの仕事は何？
（A：自転車タクシー）
- ④ケニアの道路で見かけなかったものは何？
（三択・信号）
- ⑤頭にのせて運んでいるものは何？（A：水）
- ⑥ケニア人の平均寿命は？（三択・48才）



ケニア直感クイズ（授業風景）



水運びは大変！



ケニアの病院で働く
青年海外協力隊

児童の感想

- ・ケニアの人は、長生きかと思った。
- ・ケニアの医療のために働いている日本人がいると知ってびっくりした。

続いて、マータイさんが「もったいない精神の象徴」と絶賛した風呂敷を見せて、カンガの使い方を考えさせる活動のきっかけとした。

ここでは、「ケニア人の知恵にチャレンジ！」としてグループ活動を行った。子どもたちは衣服としてだけでなく、かばん、おくるみ、ハンモック等次々と使い方を発見していくことが楽しくて、嬉々として活動していた。

さらに、カンガをスカートにしてポケットを作る、ブランコ、木の実を受けるなどの使い方を紹介すると、ケニア人の知恵にとっても感心していた。



ケニア人の知恵にチャレンジ！



カンガの使い方、これはどうかな？

所感

この授業は、内容をアレンジしながら全学年で実施した。発達段階や知識量と経験の差などによる反応の違いはとても新鮮だった。また、中学校の英語教師の参加も得て、各担任とTTで授業を行ったことで、様々な視点や角度から貴重なご意見をいただき大変参考になった。

反省点としては、伝えたいことや考えさせたいことの焦点化、学年に応じた補足説明の工夫、高学年での他教科との関連づけ等があげられる。

4 時限目 学校へ行きたい！

ハローワールドに掲載されたケニアの小学生の今一番欲しいものは「学校」というアンケート結果やJICA資料から「学校へ行けない」理由を伝え、その感想交流を導入とした。

子どもたちは、学校に行けることが当たり前でないことやフォト・ランゲージで知った日本の学校との違いにすごく驚いていた。



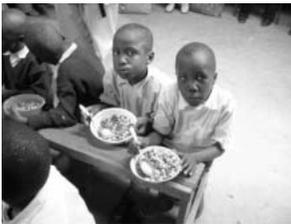
日本の学校と同じ所もあるね！

続いて、訪問校で出されていた給食のギゼリを紹介し、そのよさについて朝食がギゼリの子とパンの子の歯の比較をもとに考えさせた。

学校給食支援については、ケニアのマラソン選手が支援の拡大を訴えている公共広告を見て知っている子が数人いた。このことは、就学率や出席率を向上させる給食の役割や通学できる喜びを伝えるのにとっても役に立った。

児童の感想

- ・毎日給食がギゼリで飽きないかなと思ったが、「学校に行くと食べることができる」と聞いて、給食の大切さがわかった。
- ・ギゼリは栄養たっぷりで、噛むことで歯も丈夫になることがわかった。
- ・カンガを工夫して使うケニアの人は頭がいいなと思ったのに、なぜ貧しい国になったのか不思議だった。



給食のギゼリを食べています！



ギゼリ食とパン食の子どもの絵



ウガリを手で上手に食べたよ！

成果と課題

授業に入る前に、「国際理解教育と開発教育」について、山口大学自主活動ルーム・コーディネーターでケニア海外研修の同行者でもある高見先生を招聘し、校内研修を行った。

講義の後にフォト・ランゲージやエケコ人形を使った参加型学習の手法を体験的に学ぶことができ、日々の教育実践に即生かせる有意義な研修だと教員に大好評であった。

今回の授業は、これから進めていく国際理解教育や開発教育へつながる種まきの授業だと考えている。そして、私にとっては、全教職員を巻き込み、その協力を得て実現した心に残る授業実践ともなった。

今後もケニアでの海外研修で得たことを生かして、総合的な学習の時間を核に積極的に開発教育や参加型学習を取り入れた授業に取り組んでいきたい。

5 時限目 ケニアクッキング 「手で食べてみよう！」

本校では毎年米づくりに取り組んでいる。そこで、馴染みの深い日本の主食ご飯とケニアの主食ウガリの特長や作り方、食べ方等の比較から授業に入った。

子どもたちはウガリを試食し、食べ慣れたご飯との共通点や違いに着目しながら気づきを発表することができた。

ウガリは手でスプーンの形にして、日本風ニョマチョマを包んで食べた。意外に口に合ったようで子どもたちの感想は上々。チャイとともにケニアの味をおいしく体験できたようだ。